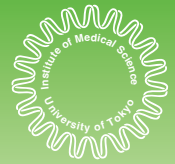


医科研病院だより



第64号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
令和6年7月15日
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

【CONTENTS】	看護部長就任にあたって…………… 1
	すこやか・カフェ 新しい放射線治療装置が導入されます… 2
	くすりばこ …………… 3
	なんでも・ひろば 感染免疫内科のご紹介 …………… 4

看護部長就任にあたって

看護部長 小粥 美香



このたび、令和6年4月1日より吉井栄子前看護部長の後任として看護部長を拝命いたしました小粥 美香（こがゆ みか）と申します。歴史と伝統をもつ病院で責任ある役職に就くこととなり、大変光栄に思っております。

着任に際し、まず、先の能登半島地震で犠牲となった多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。ご親族や友人が被災された方々のご心痛もいかに感じます。そして、被災地の復興に力を注いでいる方々に心より敬意を表したいと思います。

私は、昨年度まで当院の看護師長として勤務しており、勤務も20年をこえてまいりました。20年の勤務で、病棟・外来・手術室など多くの場所を経験できたことは、私にとって大きな財産になっています。多くの経験をさせていただいている中で、特に感染症に興味を持ち学ぶ機会もいただき、ここ10年ほどは病院の感染制御部で感染担当看護師も兼務しておりました。その時代に応じて啓発や対策をおこなってきましたが、ここ5年間はCOVID-19の対応であつという間に過ぎていきました。

昨年の5月よりCOVID-19が5類感染症に分類されて、世の中に少しずつ日常が戻り、観光客も増えてきました。病院も同じ時期より徐々に制限が緩和され、以前に近い診療になってきました。この5年間、多くの患者さんやご家族にはご不便をおかけしました。

皆様のご協力により診療形態を縮小することなく維持できたのはとてもうれしく思っています。

当院の職員が安心して業務にあたることができた要因の一つに、東京大学医科学研究所の協力があります。早期にサージカルマスクの有用性、消毒方法の情報や物資不足時の提供など多くの協力を頂けたことが、病院だけでなく医科学研究所一丸となつ(ス)

(ス)て乗り越えることにつながったのだと思います。また、近隣の皆様より温かい励ましのお言葉、マスクなどの衛生材料の提供、レストランからの食事の提供など多くのご支援・ご協力を頂きました。この支援に私ども職員は先の見えない中で、力となり頑張ることができました。こころよりお礼申し上げます。

当院は、先端医療を開発し実践する使命をもつとともに、地域住民の健康を守る一般病院としての機能も合わせもっています。今後もCOVID-19のような危機がおきても医療を止めることなく提供することで、この地域に貢献したいと思っています。



1号館入口のステンドグラスを見上げると医科研の歴史を強く感じます。歴史に恥じないよう看護師ひとりひとりが学び続け、疑問を持ち考え検索し、やってみる。力を合わせ、力を引き出す、誇りを持つことを大切にしながら、患者さんに寄り添った看護を実践し「看護の力でアウトカムに差を出す」ことを目指してまいります。

看護部長としていっそう看護の充実を図るため、看護師教育の充実、職場環境の改善に努めたいと思います。どうぞ、忌憚ないご意見、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。





治療のトピック

新しい放射線治療装置が導入されます

放射線科 部長 赤井 宏行

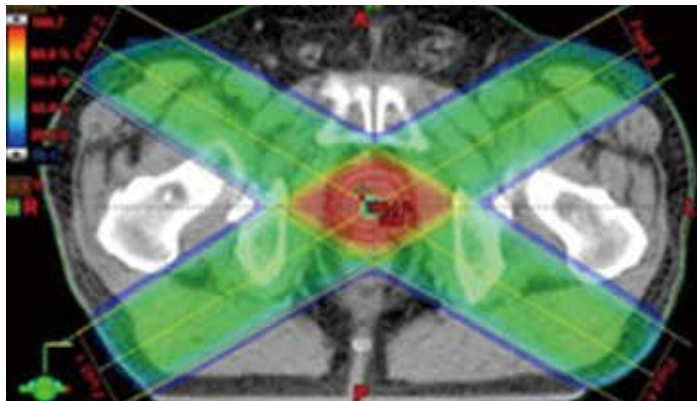
いきなりですが、医科研病院に新しい放射線治療装置が導入されます!現在当院において稼働している放射線治療装置(Elekta Precise Treatment System)は、当院が現在の病棟に移転した2004年より稼働しており、長らく当院の診療を支えてきてくれました。しかしながら人間が年をとって体の関節などが痛くなるのと同様に、機器も老朽化によりどうしても機能が徐々に落ちてきてしまいますし、故障がちになります。そこでついに新しい放射線治療装置(Elekta InfinityTM)を導入する運びとなり、来春より稼働する予定です。



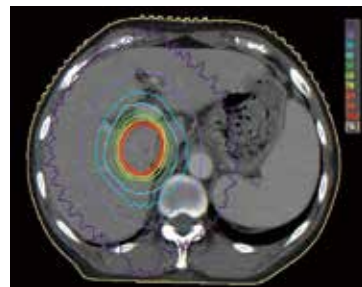
一般的に機械が新しくなれば新しいことができるようになりますが、放射線治療装置についても同様です。そうなるこの医科研病院内にても新しい用語が飛び交うようになるわけですが、放射線治療の新しい技術は英文字の略称が呼ばれることが多く、一般の方には馴染みがないと思われます。今回は最近の放射線治療の代表的な手法について紹介したいと思います。

IMRT(Intensity Modulated Radiotherapy:強度変調放射線治療)

古典的な放射線治療は、複数方向からボックス型の放射線を当てて、目標とする部位に高線量の放射線を集めようとする方法でした。画像で示しているのは昔の前立腺癌への放射線治療計画画像ですが、前立腺に高い放射線量を集められているものの、そのすぐ背側にある直腸にも比較的高い線量が当たってしまっていることがお分かりになると思います。(ア)



(イ)その後、マルチリーフコリメータ(MLC:Multi Leaf Collimator)と呼ばれる数ミリメートル幅の金属の板を用いてより複雑な照射野(放射線を当てる領域)を作る三次元原体照射が主流となりました。この三次元原体照射をさらに進化させたものが、IMRT(強度変調放射線治療)となります。どのように当てる放射線の強さを変えているかということ、三次元原体照射ではMLCを用いて一定の照射野を作った後はその形のまま放射線治療を行いますが、IMRTではMLCを照射の最中にも動かすことで、一つの照射野の中に放射線の多く当たる部位と少なく当てる部位を作り出しています。その結果、こちらの画像は肝細胞癌への放射線治療計画画像ですが、病変部から離れるとどんどんと放射線量が減る(つまりは病変に集中的に放射線を当てられている)治療が実現するようになりました。



VMAT(Volumetric Modulated Arc Therapy:強度変調回転放射線治療)

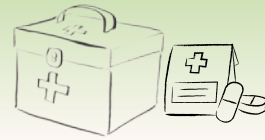
VMATは前記のIMRTをもう一段階進歩させたものとなります。英語の表記は正直何を表しているのかわかりにくい名前ですが、日本語名を見ていただくと容易に簡単に想像がつくと思われます。そうです、IMRT + 回転です。IMRTでは多方向から照射するにあたり、装置を治療位置まで移動しその場所で装置を固定して放射線照射をするという一連の行動を繰り返します。それに対して、VMATではそのように装置を固定して放射線治療を行うのではなく、装置を回転させながら放射線を照射しますので、より短い時間で治療を受けることができます。

IGRT(Image Guided Radiotherapy:画像誘導放射線治療)

今まで説明してきたIMRTやVMATと言った複雑な放射線治療は病変への放射線の集中性が高まっているため、仮に治療を計画した時と実際に治療を行う時で患者さんの体の向きや位置などが異なりズレが生じてしまうと、病変部に本来当てるべき放射線を当てられないという事態が起きかねません。そのためにこのIGRTがあり、その名前の通り画像情報を用いて位置合わせを行う技術を指します。実際には患者さんが治療の寝台に寝ている状態でX線撮影やCT撮影を行い、その画像から骨や臓器の位置を把握し、寝台を正しい位置に移動させます。

いかがでしたでしょうか?複雑な名前のものが多いですが、いずれも病変部に高い線量を当てつつ、その周囲正常組織への放射線量を減らそうとする技術であることがお分かりになられたのではないのでしょうか。新しく稼働する放射線治療装置を用いて、患者さんにより安全で効果の高い治療を提供していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





時間を守ってクスリの力を最大限に活かしましょう



みなさんこんにちは、医科研薬剤部の黒田です。
今回は、お薬をお飲みになる時間の重要性について解説いたします。

起床 ①「起床時」朝起きてすぐ



例) 一部の骨粗しょう症治療薬はカルシウムとくっついて効果が弱まってしまいます。そのため、服用後30分は横にならず、水以外の飲食や他の薬の服用は避けていただく必要があります

②「食前」食事の20～30分前



③「食直前」食事をする直前（食事の15分前）

例) 糖尿病治療薬の中で、すばやく身体の中にあるインスリンの分泌を促すお薬は効果発現が早いので低血糖になりやすく、食後では効果は薄いので食直前での服用が必要です。また、腸からブドウ糖を吸収するのを防ぐお薬は食後では効果が期待できないので、最低でも食べ始めてから服用する必要があります。

食事

④「食直後」食事を終えた直後（食事の15分後まで）



例) EPAやDHAなど高脂血症の治療薬はお食事のなかにある脂肪分とともに吸収されやすい性質があります。そのため、「ごちそうさま」と同時に服用してください

⑤「食後」食事の30分後まで

⑥「食間」食事の2時間後

例) 分子標的薬と呼ばれる非常に重要なお薬などは食事による影響で効果がかなり落ちてしまいます。そのため、食事が身体に取り込まれてから（食後2時間後）に服用すること効果を発揮できます。

就寝



⑦「就寝時（寝る前）」

例) 寝つきをよくするお薬は、当然、就寝前に服用されると思いますが、実は食事の影響を受けやすいものも多いので、可能な限り寝る直前（ベッドに入ってから）服用したほうが効果が得られます。

おくすりのことは、薬剤師にいつでもご相談ください

なんでも・ひろば



感染免疫内科のご紹介

診療科長 四柳 宏

医科学研究所は明治39年に現在の地に新築されましたが、当時は“国立伝染病研究所”と呼ばれていました。昭和42年に“医科学研究所”に改組され、附属病院が誕生しました。感染免疫内科が内科から独立したのは昭和56年です。その後現在に至るまで感染症は当院における診療の柱の一つです。

感染症を起こす微生物は細菌・ウイルス・真菌(かび)・寄生虫など様々です。感染免疫内科の設けられた頃はさまざまな細菌が問題になっていましたが、昭和60年以来ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症が大きな問題になり、当院はその診療に全国に先駆けてあたってきました。

感染症やその原因となる様々な微生物の研究者が医科学研究所には数多くおられます。これまでも研究所と病院が協力して診療・研究を進めてきましたが、その経験は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の診療に生かされました。患者さんの診療に(ア)



(イ)役立つ研究・検査の開発・臨床試験などが多くの人の協力で行われました。医科学研究所附属病院では現在まで1000人近くの患者さんを受け入れましたが、これまで外来・病棟を閉鎖することなく診療を続けることができたのは患者さんたちを含めた病院の皆様の協力のおかげと深く感謝しています。

COVID-19の流行は感染症の予防、ことに予防接種(ワクチン)の大切さを私たちに改めて教えてくれました。また、子宮頸がん、肝臓がんなどは、ワクチンによる感染予防ががんの予防にもつながる病気です。6月20日の市民医療懇談会では、“がんを引き起こす感染症”をテーマに感染免疫内科の医師3名で話をしました。海外渡航の際も感染症の予防は大切であり、当院では渡航前のワクチン接種も積極的に行っています。このことも市民医療懇談会で紹介しました。

皆さんの誰もがかかる“感染症”から皆さんを守ることを目指して感染免疫内科一同がんばって参ります。ご相談などあれば気軽に声をかけて頂ければ嬉しく思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は
<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/sample-information.html>
をご覧ください。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

内科(総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、消化器)
外科(一般、腫瘍、消化器、乳腺)、整形外科(関節)
脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談

外来診療日

月曜日～金曜日(祝日および年末年始を除く)

診療受付時間

8:30～11:30(初診・再診)

12:30～16:00(再診のみ)

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)

予約専用電話(予約受付および変更)

診察: 03-5449-5560

検査: 03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00(外来診療日のみ)

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分(1メーター)
- JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車

